

づれもわたり五寸をためしとせらるとみえ、隼人司式には、年ごとに茶籠二十枚づ、造り納るよしなど見ゆれば、其器ものもはやくこゝに造り出づる事あられたり。

〔權記〕長徳元年十月十日、下給出納爲親造。茶所請者、今年料造進御茶料物文。

〔海人藻芥〕茶者自上古我朝ニアリ、挽茶節會トテ於内裏被行公事儀式、然葉上僧正入唐之時、重而茶ノ種ヲ被渡、栴尾明惠上人翫之、サレバ本ノ茶ト云ハ栴尾也、非ト云ハ宇治等ノ事也。

〔西宮記臨時五〕所々事

茶園在主殿寮東

〔百寮訓要抄〕典藥寮 もろくの藥をおさめらるゝ也、此寮は藥園あり、茶園、枸杞園あり。

〔本朝文粹山寺〕晚秋過參州藥王寺有感

慶保胤

參河州碧海郡有一道場、曰藥王寺、行基菩薩昔所建立也、聖跡雖舊、風物惟新、前有碧瑠璃之水、後有

黃纈纈之林、有草堂、有茅屋、有經藏、有鐘樓、有茶園、有藥圃略下

〔田氏家集下〕乞滋十三摘茶

不勞外出好居家、大抵閑人只愛茶、見我銚中魚失眠、聞君園裏茗爲牙、詩行許摘何妨決、使及盈筐可得誇、庭樹近來春欲暮、莫教空腹猶看花。

〔倭名類聚抄十三〕龍眼木 楊氏漢語鈔、龍眼木佐加 今按、龍眼者其子名也、見本草、日本紀私記云、

坂樹刺立爲祭神之木、今按、本朝式用賢木二字、漢語鈔、榲字並未詳、

〔大和本草十二〕榲 本邦ノ寶基本紀曰、一名眞賢木、持受自然之正氣、冬夏常青、故衆木之中以賢木

號榲木也、今案ニ榲ハ倭字也、日本紀ニ榲ヲサカキト訓ズ、又龍眼木トカケリ、順倭名抄モ同、龍眼

肉ノ葉ニ似タル故ニヤ、昔年龍眼木異邦ヨリ來ルヲ見タリシニ、其葉ヨクサカキニ似タリ、此木

山中ニ多シ、漢名未詳、本朝神事ニ用之、又別ニ葉モ木モ相似テ不同木アリ、其名未詳、

榲